

令和元年度 森林研究・整備機構営事業 事後評価 技術検討会
農用地総合整備事業 「美濃東部区域」 議事概要

1. 実施日 令和元年7月9日(火) 13:30~15:30

2. 場所 農林水産省 本館地下1階 局第3会議室

3. 出席者 技術検討会委員 浅野 耕太 京都大学大学院教授
飯田 俊彰 東京大学大学院准教授
後藤 展子 (株)菜っちゃん代表取締役
橋本 禅 東京大学大学院准教授

(敬称略、五十音順)

事務局等 農林水産省農村振興局整備部農地資源課調査官 他
国立研究開発法人森林研究・整備機構森林整備センター
農用地業務室上席参事 他

4. 技術検討会の概要

(1) 委員長の選出

浅野委員を選出した。

(2) 「関係団体の意見」の報告及び「事後評価書(案)」について

事務局より説明を受け、質疑を行った。

(3) 意見・指摘等

技術検討会の意見として、次のとおり取りまとめた。

本事業で整備された農用地では、水稻やトマトの他、地域の特産である美濃白川茶、上之保ゆずなどが栽培されている。併せて整備された農業用道路は、本区域の流通網の広域化に寄与し、生産、加工及び集出荷の効率化をもたらしている。

また、中山間地域にありながら大規模な農地集積や作業受託に取り組む経営体により、本事業で整備された農用地や農業用道路は有効に活用されている。

(農用地整備)

区画整理や暗渠排水等により、区画の整形・拡大、排水改良が図られ、農作業が効率的に行えるようになり、営農経費の節減、生産性及び収益性の向上に貢献している。

また、これらの農用地の整備により、本区域の営農の選択肢が増え、将来への継承の可能性が高まったことは重要である。

(農業用道路)

農業用道路により、農林産物輸送の効率化や地域住民の日常生活の利便性が向上したことに加え、茶摘み体験や鮎釣り等への来訪者の利便性も向上しており、都市農村交流の活性化に貢献している。

さらに、平成30年の西日本豪雨の際には、農業用道路が災害に強い道路として主要道路の代替路になり、物資等の輸送や早期の被害調査に有効に活用され、緊急時の安全安心の確保に貢献した。

(今後の農業振興や地域振興に向けて)

人口減少・高齢化が進むなか、中山間地域である本区域の持続性を高めていくためには、地域の担い手となる経営体への農地集積の深化が求められている。また、この深化を促進するため、担い手となる経営体が営農しやすく、その管理もしやすい農地が必要であり、遠隔監視・遠隔操作等の新技術に対応できる通信インフラを備えた基盤整備が望まれる。

また、棚田オーナー制度等を通じた地域への来訪者がSNS等による情報発信を含めて、森、溪流、棚田など地域資源のPRを行うことで一層の交流や移住の促進が期待できる。

さらに、本区域では女性農業者による6次産業化が積極的に行われており、今後一層収益性を高めることで、地域での雇用拡大や女性の活躍の我が国におけるモデルケースとなることを期待したい。

(以上)